

6. ケーブルベア配線の注意事項

■ ケーブルベア向けのケーブル

可動部用ケーブル・コード選定表をご参照ください。

■ ケーブルベアの選定

1) ケーブルベア曲げ半径

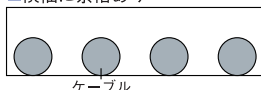
曲げ半径がケーブル仕上外径の7.5倍以上となるケーブルベアの選定を推奨します。

2) ケーブルベア横幅

ケーブルベア内にケーブルを水平に並べ、十分余裕があるような横幅のケーブルベアを選定してください。

余裕のあるフラットな配線を行うことで、他ケーブルと頻繁に干渉し合うことを防ぐことができます。

■ 横幅に余裕あり



3) ケーブルベア内の仕切り板

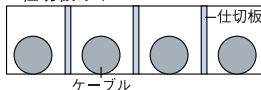
できるだけ多くの仕切り板を設け、ケーブル同士またはエアホース等と区別して配線をしてください。

仕切り板を設けて、ケーブル同士が干渉し合う混配線を防ぐことで、各ケーブルが持っている特性を十分に発揮させることができます。

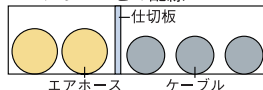
また、ケーブルとエアホース等を区別して配線することで、エアホース等によるケーブルの潰れを防ぎ、ケーブルをより長くご使用いただくことができます。

(ケーブル毎に仕切り板を入れ、エアホースは仕切り板で完全に分ける方法が理想的です。)

■ 仕切り板あり



■ エアホースとの配線



4) ケーブルベア内の占積率

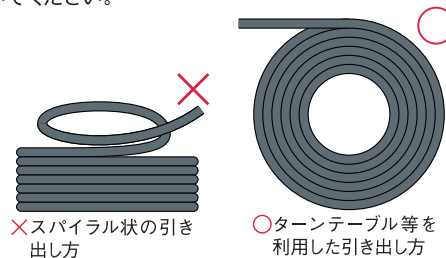
ケーブルベア内においてケーブル同士やケーブルベア壁面に干渉しないよう余裕を持った占積率(30%以下を目安)にしてください。

■ 配線時の注意事項

1) ケーブルのねじれ

・ケーブル切断時

束からスパイラル状に引き出すとケーブルにねじれが入りますので、行わないでください。



・ケーブル配線時

ケーブルのくせをとるように一直線状に伸ばした後、出来るだけケーブルにねじれが入らないように配線を行ってください。(ケーブル表面の印刷表示を目安としてください。)

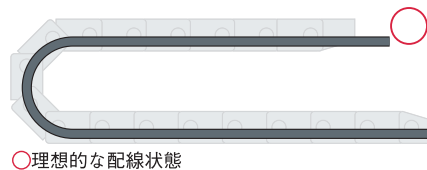
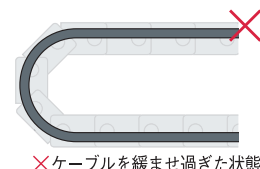
2) ケーブルには張力を加えない

ケーブルに張力を加えてケーブルベアに敷設すると、ケーブルベア内でケーブルがつばった状態となり、ケーブルベアの内壁でシースが削られます。ケーブルに張力が加わらないような配線をしてください。



3) ケーブルを緩ませ過ぎない

ケーブルベアに対してケーブルを緩ませすぎた場合、ケーブルベアの内壁でシースが削れたり、他のケーブル等と絡みやすくなりますので、曲げ部分でケーブルベアの高さ方向の中心を通るように長さを調節して配線してください。



4) ケーブルベア内で固定しない

ケーブルをケーブルベアの可動部分において結束バンド等で固定すると、ケーブルが持つ曲げ応力の分散・吸収作用が失われます。ケーブルはケーブルベアの可動しない両端末で固定してください。

5) 外径が大きく異なるケーブル同士を配線しない

外径が大きく異なるケーブル同士を配線すると、細いケーブルが太いケーブルに押さえつけられ、細いケーブルが断線しやすくなります。仕切り板にて分離させる方法をお奨めします。

■ 外径が異なるケーブルの配線

